

Q. 男女共同参画についてご自身の思いをお聞かせください。

- 学校現場では自然に適性に応じて役割分担され、のびのびと仕事をさせてもらっています。一度、教職を離れ子育ての傍らパートタイムで働いた経験から、教育現場は他と比較して男女共同参画に関しては恵まれていると感じています。(女性)
- 男女共同参画は望ましいことですが、一方で社会の構造上、男性の役割、女性の役割があることは否めません。(男性)



Q. 教職員における男女共同参画の実態をどう捉えていますか？

- 小学校教員の女性割合がやや多いので、小学校高学年の思春期にさしかかる男子児童への対応などを考えると、男性教員を増やす必要性を感じます。現在は、市立幼稚園の教員は女性のみですが、男性教員も必要ではないでしょうか。(女性)
- 管理職は適性でなるものであって性差は関係ないと考えます。教育現場では、男性も女性もそれぞれの適性に応じて同じように活躍されていると感じています。(男性)
- 指導における母性面、父性面での役割分担が存在し、また必要であると感じています。小学校、中学校において教員の男女比が異なることも、児童や生徒の指導上の観点から理解できます。ただ、指導や支援におけるバランスとタイミングが整っていれば、男女比は1対1になることが望ましいと考えます。(女性、男性)

Q. 女性の管理職比率が低い理由をどのように考えますか？

- 管理職を意識する年代になると、親の介護といった課題が出てくる人が多いですが、そのような現状を踏まえた上で管理職を目指すか目指さないかは女性が自らの意思で選択していることだと思います。管理職になりにくいとか、なれない、ではなく、そちらを女性自身が選択したということもあります。(女性)
- 結婚、妊娠、子育て、そして介護などで管理職試験を受けるタイミングをのがしてしまうことや、職場に受験しにくい風土や環境があるのかと思います。もし自分が女性ならば子育てや先のことをいろいろと考えてしまうかもしれません。(男性)

Q. 男女共同参画について授業などで取り組んでいますか？

- 小学校では性差を意識せず、人を大切にすることや、自立を目指すことを大切にしています。(女性、男性)
- 道徳の授業では小学5年生、6年生で「互いに信頼し、学び合っ て友情を深め、男女仲良く協力し助け合う」、中学校で「男女は、互いに異性について正しい理解を深め、相手の人格を尊重する」など、男女平等や思いやり、人権侵害について指導しています。(男性)
- 社会科では、男女雇用機会均等法等の法律や、歴史的意義について学習しています。(男性)
- 特別活動の「職場体験」では、保育士や幼稚園教諭を希望する男子生徒も多く、職業に対する憧れの気持ちに男女差はないと思います。(男性)
- 英語の授業で職業名を学習する際には「警察官」は「policeman」から「police officer」へと変わったように、職業における男女の固定観念がなくなってきたことに触れたりします。(男性)

Q. 生徒における男女共同参画の実態をどう捉えていますか？

- 小学校では女子が活発であり、女子の応援団長、児童会長というのは珍しくなく、リーダー的立場の比率に男女の差はありません。また、授業においても男女に関係なく、児童がそれぞれの適性において取り組んでいることが多いです。(男性)
- 進級するにつれてリーダー的な立場に占める男子の比率が増えてくるのであれば、子どもたちを困む環境（親の意向、社会の風潮など）や発達段階が影響しているのではないかと考えられます。(女性)
- 中学生は男女の性差やお互いの役割を意識しながら、お互いを尊重できる状況にあるのではないかと思います。(男性)

【表】市立中学校 生徒会長女性比率（平成25年度）

学校数	生徒会長	
	女子	男子
23校	8人 34.8%	15人 65.2%

Q. 保護者における男女共同参画の実態をどう感じますか？

- 指導面においては、子どもを守ろうとする傾向のある母親より、物事を客観的に判断できる父親の対応がカギとなることがあります。(女性)
- 教育に関しては母親が中心となっており、家庭訪問、保護者面談などでは母親と接することが多いです。運動会や卒業式では父親の姿も多く見られます。(女性、男性)
- 保護者は依然として「女の子は女らしく、男の子は男らしく」という考え方が多いような気がします。進路面談などでは「男の子だから、せめて大学くらいは…」とか「女の子は結婚して仕事をやめるから…」といった声は少なからず聞かれます。(男性)
- 「父兄会」が「保護者会」へと呼び名が変わったのは20年位前です。(男性)
- 最近、中学校を中心に「おやじの会」や「父親クラブ」ができています。これは、学校に父親が足を運ぶことが多くなったことや、生徒指導における父親の参加の必要性が認識された結果だと思います。(男性)

Q. ご自身の仕事と家庭のバランスについてお聞かせください。

- 今日は仕事をここまでやっておきたいと思っても、帰って夕食の支度をしなければならぬと思うと、そこでやめなければならぬ。職場の飲み会も、夫は何も気にせずに行きますが、自分は食事の支度と段取りも全て整えてからです。男性はいいなあと感じてしまうこともあります。(女性)
- 共働きなので、どちらかが忙しい時にもう一方がそれを補っています。今は自分の帰りが早いので、夕飯は半分が私の担当、朝も私の担当。お昼は自分で弁当を作っていきます。妻が掃除洗濯をやってくれるので、そういう意味では半々かと。たまに他の男性がうらやましいと思うこともありますが、当初からこの形なので特に抵抗はありません。(男性)
- 仕事と家庭の優先順位を考えながらバランスをとっていますが、実際には、妻に負担をかけることが多いです。(男性)

ご協力をいただいた教育委員会指導主事のみなさん

- 梅谷 尚子さん ●川上 誠さん ●小坂橋貴久さん
- 富澤真由美さん ●原口 尚延さん

※女性指導主事からの発言、男性指導主事からの発言の後ろにそれぞれ（女性）（男性）と表示しています。

Q. 男女共同参画の展望をお聞かせください。

- 多様性を認め合い、共生していく社会の実現に向けて、男女共同参画においても人権意識、人権感覚が社会全体に浸透していくことを願っています。(女性)
- 将来的には、職場などで今以上にその理想が浸透し、多様な人材が活躍することで経済活動が活性化しているのではないのでしょうか。

また男性の家事への参画が進み、男女共同参画というキーワード自体がなくなって、男女の差異なく社会で活躍していると思います(男性)

●教育現場では、男女共同参画の理念が浸透し、理解したうえで、男女の性差や体力面で役割分担や適材適所による教育が施されているでしょう。(男性)

取材を終えて

男女共同参画市民サポーターの有志による編集会議で、テーマの検討からインタビュー、記事作成に至るまで、作業を行いました。編集委員の皆さんに、感想を伺いました。

★編集委員全員一致で男女共同参画実践の最前線に立つ教育現場で活躍される小中学校の先生方にインタビューしてみようということになりました。指導主事の皆さまにはお忙しいところ快く取材にご協力いただきありがとうございました。

今回のインタビューの中で「男の子が成長期にほんの一瞬だけガラスのように透明になる時があって、それを境に男児から男性へ変わり始める」そういう時、やはり男女の先生の協力や役割分担が必要だという重要なお話をしてくださいました。一瞬の子どもの様子を見過ごさずに、思春期の子もたちと向き合うことを「大変」という言葉を一度も発せず「それを見届けるために高学年を担当してきた」と明るくはっきりおっしゃった言葉が印象的で、とても嬉しく思いました。

学校教育は男女共同参画という前に一人の人間として自立していくための出発点であり、相手の役割人格を尊重し協力し、助け合うということの大切さをあらためて感じました。そして誰でもがそれぞれの



適性を認めて生活できるようになるには、私たち大人が誰にでも隔たりなく優しい人にならなくてはと考えさせられました。(伊東 明美)

★教育現場では、児童生徒の教育指導や保護者への対応に当たって、彼らの性差を反映した行動に配慮した適切な対処が重要であるため、何でも男女半々ではなく、男女の適性に応じた役割分担を活用した“しなやかな男女共同参画”が当たり前に実践されていることが分かりました。

これは、身体のみならず脳の情報処理システムすなわち精神活動にも男女の性差が存在するという最新の生物学・生命科学が解明した事実に基づく必然の成り行きです。すでに市立中学生徒会長に占める女生徒の比率が期せずして34.8%という高さにあることと相俟って男女共同参画社会の方向性を示唆していると思われます。(関 昌夫)

★「教育委員会」というと、得体の知れぬお堅いイメージがありましたが、そこで働く指導主事の皆さんは、人間味あふれる素敵な方々でした。インタビューでは、仕事の話だけでなく、家庭での個人的なお話までして頂き、本当にありがとうございました。紙面の関係で多くは紹介できませんでしたが、男性の先生も、家事をされているのが印象的でした。

今後、女性も男性同様に社会で活躍するようになると、女性だけに家の事を任せておくわけにはいかなくなります。これからは、男性も女性同様に家庭責任を果たさなければならない時代になるでしょう。男性も女性も、仕事と家庭を両立できるよう、今の働き方を見直す時が来ていると思います。

(原田 絵里子)